

株主のみなさまへ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

開始から丸4年を経過してもいまだ終結に至らないウクライナとロシアによる軍事抗争に加え、新たに勃発したイランとアメリカ及びイスラエル等との争い。不安定を極める情勢の影響を受け、世界各国の経済も翻弄されるという状況の中、当社メディシノバは本年も定時株主総会の時期を迎えました。

2025年度は、大切に進めてきたプロジェクトが重要なマイルストーンに到達し、いよいよ重要な局面を迎えるところまできた、そのような一年でありました。

MN-166（イブジラスト）におきましては、プレスリリースでもお伝えさせていただきましたとおり、ALS（筋萎縮性側索硬化症）を対象としたフェーズ2b/3臨床治験の患者登録を完了しました。12カ月間の治療期間を経て、データ解析を行い、本年の末頃にはトップラインデータを発表することができる見通しです。この治験で良い結果が得られれば、いよいよ承認申請のフェーズを迎えます。NIH（米国国立衛生研究所）からの資金提供により進められている拡大アクセスプロトコール治験も、大きな意味を持つことが期待されます。

ALSの他にも、CIPN（化学療法誘発性末梢神経障害）を対象とするフェーズ2b治験で結果を待つ段階に進捗しており、次のステップに向けた検討・準備を進めております。また、グリオブラストーマ（神経膠芽腫）を対象とする治験・動物スタディの結果を踏まえ、中枢神経オンコロジー分野での次のステップの準備をしております。

MN-001（タイペルカスト）におきましても、の高中性脂肪血症、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）、2型糖尿病（T2DM）を対象とするフェーズ2臨床治験で患者登録を完了しました。本年の夏頃にトップラインデータをお伝えできる予定です。

2026年度も前進するために必要なプロセスを丁寧かつ着実にクリアし、次なるステップに進んでいきたいと考えております。当社メディシノバを応援してくださる株主や投資家の皆様をはじめ、当社の事業運営に携わってくださる関係者の方々、さらには疾患と闘っておられる方々に、良いお知らせを届けられることができるよう引き続き尽力してまいります。変わらぬご指導・ご鞭撻をお願いできれば幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

2026年5月吉日

メディシノバ・インク
代表取締役社長兼CEO
岩城 裕一